

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
草苑保育専門学校		昭和32年2月25日		栢原英郎		〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目17-11 (電話) 03-3953-4016																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人草苑学園		昭和56年2月25日		理事長 柳内光子		〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目17-11 (電話) 03-3953-4016																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	保育専門課程	幼稚園教員・保育士養成科			平成8年文部科学省認定	-																							
学科の目的	キリスト教の精神を教育の理念に掲げ、専門知識と実践力を持ち、深い愛にあふれた保育者を養成する。																												
認定年月日	平成30年2月27日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	89単位	39単位	39単位	10単位	-	1単位																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
300人	268人	0人	14人	35人	49人																								
学期制度	■春学期:4月1日～9月30日 ■秋学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。																								
長期休み	■夏季:8月7日～9月15日 ■冬季:12月23日～1月3日 ■学年末:3月4日～3月31日			卒業・進級条件	89単位2,250時間を修了した者																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任を中核として、個人面談、保護者面談等を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 修養会、草遊祭(学園祭)、クリスマス行事等の実行委員 ■サークル活動: 有																								
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 保育所、幼稚園、こども園、児童養護施設、障害児・者施設、児童館、学童クラブ、乳児院等 ■就職指導内容 業界研究、履歴書指導、模擬面接等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																								
		■卒業生数 110 人 ■就職希望者数 108 人 ■就職者数 108 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 98.18181818 %		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピアヘルパー</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>児童厚生2級指導員資格</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ピアヘルパー	③	18人	18人	児童厚生2級指導員資格	③	39人	39人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
ピアヘルパー	③	18人	18人																										
児童厚生2級指導員資格	③	39人	39人																										
		■その他 ・進学者数: 2人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 なし																									
		(令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)		■中途退学者 11名 ■中退率 4.2% 令和2年4月1日時点において、在学者253名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者228名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題、進路変更、クラスと折り合いがつかなかった、体調上の理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談や実習センターによる実習指導を通じて、学習面・精神面のサポートを行っている。																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 令和2年度対象者:7名																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																												
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.soen.ac.jp/">https://www.soen.ac.jp/</a>																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

保育の世界は急激な変化はないとしても、社会の情勢等により、求められる教育内容が変化している。この変化を可能なものは日常の講義内容に反映させ、さらに教育課程を見直していくために実習園等からの情報を日頃から大切にしている。さらに、実習園等の園長他をお招きして「感謝と懇談の集い」を開催、各校の集う「保育専門学校フェア」などに積極的に参加をして、情報を収集することになっている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校関係者評価委員会とともに、そこでの様々な意見を本校の教育活動に反映するべく学校長、総合企画室長が対応することとしている。大規模な改定は、定例教職員協議会(年2回開催)での講師からの意見、日頃の講師間の議論、学期ごとに行っている「学生による講義評価アンケート」などを参考に、教務・学務の協議で原案を作成し、教育課程編成委員会等の議論を経て行う。小規模な改定(文科省等との協議を要しないもの)は、時間割、講師の選定、シラバスなどを作成する学期ごとに行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年8月26日現在

名前	所属	任期	種別
阿江美知代	浄風幼稚園 主任	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	③
森 文稔	社会福祉法人さきたま会 薫る風・上原こども園 総括責任者	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	③
横溝 昌子	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 教授	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	②
徳田 多佳子	草苑保育専門学校 非常勤講師	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	
栢原英郎	草苑保育専門学校 校長	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	
柳内えり	草苑学園 理事	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	
竹原有基	草苑保育専門学校 教務部長	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	
後藤ゆかり	草苑保育専門学校 専任講師/音楽主任	令和3年9月1日～令和4年3月31日(半年)	

※委員の種別の欄には、**企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)**

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月15日 10:00～12:00

第2回 令和3年3月22日 15:10～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成26年11月に発足した教育課程編成内部委員会が、2016年度からの新教育課程の編成に当たって指導校である青山学院大学に対して数度にわたって説明し意見をいただいております。教育課程編成委員会に準ずる役割を果たしてきたと考えています。また、平成29年2月に行った第1回教育課程編成委員会の会議結果を受けて、これまで臨時講義として行ってきたいくつかの講義を統一して科目「保育総合教養」を新設するなど、学生の教養、総合力を高めることに努めている。平成30年度の再課程認定/教員養成機関の再指定時の教育課程編成等に活用された他、実践力ある保育者を涵養するカリキュラムの検討など、教学の柱となる部分の検討に利用している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育の現場に関わる講師の講義、演習から保育者として習得すべき知識、技術を身につける。実習においては実習幼稚園、施設と日頃よりコミュニケーションを図り、保育者として獲得しておくべき課題について共通認識を持ち、適当な実習指導方針の下、保育現場で働く上で習得すべき課題を明確にする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実際の保育の現場に身を置く講師が保育者として必要だと思う知識や保育技術を講義・演習を通して、習得させる。実習の場でそれらを実践し反省し考察して身につける。担当教員は実習中に指導者と面談し学修状況を直接確認し指導を行う。実習終了後に本校の評価基準にそって実習評価をする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
教育実習	学修した知識や技術と実践の結びつきを図る。幼稚園における保育者の役割を理解し、目的意識を持って保育の計画、観察、記録、技術の実践をし考察を通して実習する。	(学)菅原学園江戸川双葉幼稚園・(宗)浄風教会付属浄風幼稚園・(学)草苑学園草苑幼稚園・(学)啓明学園啓明幼稚園・(学)明浄学園明和幼稚園
保育実習Ⅰ	学修した知識・技術と実践の結びつきを図る。保育所・施設における保育者の役割を理解し、目的意識を持って保育の計画、観察、記録、技術の実践をし考察を通して実習する。	(福)東京山手マリヤ会山手保育園・(福)わかみや福祉園花と鳥保育園・(福)江戸川豊生会 愛和元町保育園
保育実習指導Ⅰ	学修した知識・技術と実践の結びつきを図る。保育所・施設における保育者の役割を理解し、目的意識を持って保育の計画、観察、記録、技術の実践をし考察を通して実習する。	(福)東京山手マリヤ会山手保育園・(福)わかみや福祉園花と鳥保育園・(福)江戸川豊生会 愛和元町保育園

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員に対する研修・研究の基本方針

本校ではこれまで、専任講師・非常勤講師に対する継続教育(キャリアアップ研修)の仕組み、考えがなかった。このため「職業実践専門課程」の認定を平成29年度に申請することを念頭に、平成28年2月に次のような「専攻分野における実務に関する組織的な研修、最新の実務の知識修得を旨とした研修」を奨励することとして、その基本方針を学内の全体会議で公表した。職業実践専門課程の認定後も同様の取組を続けている。

①若手講師の採用とベテラン講師の知識経験を生かす仕組みを作る

②講師の研修制度(機会)の確立

- ・研修会への参加の奨励、費用の補助の仕組み
- ・外部講師を招いての内部研修の開催
- ・学生の外部での発表の機会を指導(必要な場合は費用を補助)
- ・自己学習の奨励(報告制度)

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国保育士養成セミナー」(連携企業等:全国保育士養成協議会等)

期間:令和2年9月18日・9月19日 対象:専任講師

内容:保育士のキャリア支援と子どもの最善の利益

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「定例教職員協議会」(連携企業等:キリスト教学校教育同盟)

期間:令和2年9月15日 対象:本校教職員(非常勤講師含む)

内容:草苑学園がキリスト教教育を実践する意味

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「全国保育士養成セミナー」(連携企業等:全国保育士養成協議会等)

期間:令和3年9月16日・9月17日 対象:専任講師

内容:保育者養成校の存在意義を問う

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度実習指導者認定講習」(連携企業等:全国保育士養成協議会等)

期間:令和4年3月23日 対象:実習担当専任講師

内容:保育実習指導の質向上を目的として、指定保育士養成校における主たる実習指導者の資質向上のための「実習指導者」としての認定研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者からの評価については、これまで実習その他の機会を通じて幼稚園・保育園・施設(関係企業)等の意見は得ていたが、保護者や地域住民の意見を得ることはほとんどなかった。

学校関係者評価委員会を立ち上げるにあたって、文部科学省の「学校評価ガイドライン」に沿って、保護者や地域住民からの理解と参画を目指すことを基本方針としている。それを基に委員の選定を行い、委員会を運営することとした。特に、学校運営、中でも生徒指導に生かすため、日ごろから学生と接触の多い住民の意見を取り入れることを重視している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許の取得の指導体制
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人
(6) 教育環境	施設・設備等、学外学習、インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか、入学選考、学納金
(8) 財務	財政基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

実習や卒業生(の就職)を引き受けていただいている企業(幼稚園、保育園)の委員からは、次のような意見が出た。  
 ・本校の実習生、卒業生の現場力(スキル)は平均的に高いと認められるが、専門学校のセールスポイントでもあるのでさらにそれを高めるよう努めること。  
 ・一方で、社会常識等で、大学・短大の卒業生と比較して劣ると思われるのでその強化を図ること。  
 ・草苑の卒業生に限らないが、就職後、簡単に離職をしないように意識を高める教育をする必要がある。  
 ・同窓会の強化、卒業生の活用を図るべきである。  
 ・学生の事情を考慮して規則等を弾力的に運用することは、弊害が大きいのでは。といった意見が出された。  
 このような意見を受けて次のようなことをすでに実施している。  
 ①平成29年度から、手話、英語を通して美しい日本語を学ぶなど、これまで単独で行われていた特別講義を「保育総合教養講座」としてまとめ、成績評価をすることとした。  
 ②安易な気持ちでの就職、就職前の覚悟の醸成などのために、最近の卒業生を招き「卒業生講話」の時間をホームルームの時間(出席義務有)に設けた。  
 ③「電車遅延等」正当な理由がある場合、30分までは遅刻(欠席)としないというルールを廃止し、5分を超える遅刻は理由の如何を問わず欠席とした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年8月26日現在

名前	所属	任期	種別
伊豆 一男	学校法人青山学院アドバイザー(前総局長)	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	学校運営有識者
児玉 浩子	社会福祉法人江戸川豊生会 オウトピア保育園園長	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	業界関係者
小澤 珠美	株式会社バリュー&クレド 取締役	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	保護者
矢嶋 篤子	草苑幼稚園園長	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	地元法人・業界関係者
柳内 えり	草苑学園 理事	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	卒業生
横山 悟	ファミリーマート目白駅西店店長	令和元年4月1日～令和2年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

公表年月日: 2021年3月10日(水)

URL: <http://www.soen.ac.jp/college/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等(本校の場合は、幼稚園、保育園、各種の施設)への情報提供は、次のような考えのもとに行っている。  
 第一に、企業等が実習生を受け入れてもらえないと必要な単位が取れないために、本校の存在、教育理念、日ごろの教育活動の内容等を十分に認識していただくことである。特に本校は過去数度経営危機に陥り、一部では存続すら疑われている状況のために、企業等との連携の機会を確保するためにも重要と考えている。  
 第二に、実習の実施に当たって、実習先を開拓するためにも、相手側と綿密な連絡を取っていることである。これは実習巡回の際も徹底され、単に実習生の状況を視察するのみでなく、相手側園の責任者の意見をヒヤリングする機会を設けていただくなど、実習を最大限活用して情報提供を行っている。  
 第三に、企業関係者を招いての懇談会、企業関係者と学生の懇談会(保育者を確保するために企業側は大変熱心である)などを開催している。  
 第四に、昨年度から発行している「研究紀要」(印刷部数が十分でない)ので、希望される企業等には提供している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、建学の理念、沿革等のサイトでの紹介
(2) 各学科等の教育	時間割、講義内容等のサイトでの紹介

(3)教職員	講師のサイトでの紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援、公務員試験対策講座、就職フェア等のサイトでの紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	時間割、講義内容等のサイトでの紹介
(6)学生の生活支援	奨学金、自治体の奨学金等のサイトでの公開
(7)学生納付金・修学支援	学費の24分割納入制度のサイトでの公開
(8)学校の財務	監査報告書、資金収支計算書、貸借対照表のサイトでの公開
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価のサイトでの公開
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

(1): <http://www.soen.ac.jp/college/aboutus/>

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	〇			日本国憲法	日本国憲法の基本原理解である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義に加え、政治の仕組みがどうなっているのか理解できるよう、具体的な諸問題を取り上げて一緒に考えましょう。さらに新聞や資料を読み込んでいくことで時事問題を理解し、自分の意見が持てるように学びます。	1	30	2	〇			〇	〇		
2	〇			体育（理論）	健康・運動・安全確保の方法を学び、生涯を通じて楽しく動ける基盤を作る為の要因を学びます。	1	15	1	〇			〇			〇
3	〇			体育（実技）	楽しく動くことを日常生活や遊びの中での様に取り入れられるかを学びます。また、その為に保育士自身の体を整える事を目標とし、毎時間ストレッチや筋力トレーニングを行い基礎体力を高めていきます。	2	45	1			〇	〇			〇
4	〇			外国語コミュニケーション I	主にペアワークやグループワークを中心に、コミュニケーション活動を通して、学生たちが協力して英語学習に取り組む。幼児教育・保育についての課題をプレゼンテーションする。英語の歌のプレゼンテーションも行う。学生たちには、積極的に発言して、ペアワーク・グループワークに参加することが求められる。	1	30	1		〇		〇			〇
5	〇			外国語コミュニケーション II	主にペアワークやグループワークを中心に、コミュニケーション活動を通して、学生たちが協力して英語学習に取り組む。幼児教育・保育についての課題をプレゼンテーションする。英語の歌のプレゼンテーションも行う。学生たちには、積極的に発言して、ペアワーク・グループワークに参加することが求められる。	2	30	1		〇		〇			〇
6	〇			情報処理	実際の幼稚園行事の流れに沿ってお便りの作成・園児台帳作成・管理等、現場での利用方法を基礎から実習し、保育者として必要なパソコンリテラシーと情報倫理を学ぶ。	1	30	2	〇			〇			〇
7	〇			キリスト教概論	聖書を中心に授業をすすめる。また、キリスト教全体についての幅広い内容を網羅するために教科書を使用する。礼拝への出席など積極的な参加を大切に。	1	30	2	〇			〇			〇
8	〇			保育原理	保育の理念・概念及び我が国の保育・教育制度並びに歴史・思想を理解する。養護と保育の一体性など保育実践の構成原理を理解する。	1	30	2	〇			〇		〇	
9	〇			教育原理	教育に関する普遍的な理念および思想や歴史に関する基本的事項について理解する。その上で、保育者として教育についての基礎的な学びを深め、さらに、現代の子育てや子どもを取り巻くさまざまな問題に目を向ける。授業で学んだ内容について学習を深め、その理解を確認するために期末試験を行う。	1	30	2	〇			〇			〇
10	〇			子ども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の理念と意義について理解する。現代社会における子どもと家庭の現状と課題について学習する。子ども家庭福祉に関する法と諸制度・サービスについて学ぶ。さらに、子ども及び子育て家庭への支援を進める上で必要な知識・方法について学習する。	1	30	2	〇			〇		〇	



24	○			保育内容指導 法 人間関係	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。領域「人間関係」の基礎理論として幼児期の人間関係の育ちの全体像を捉え、学生のアクティブ・ラーニングにより、他者や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。	1	30	1		○		○		○					
25	○			保育内容指導 法 環境	幼稚園教育要領や保育所保育指針等を確認し、実際の保育・教育現場における活動や環境構成、その意図について学ぶ。その中で領域「環境」について記載された箇所を理解するとともに、実践事例をもとに子どもたちが活動するにあたり構成する環境やその活用方法についても学ぶ。その際「環境」との関わりを造して子どもが身につけることができる資質や能力について学ぶとともに、保育者の援助方法についても学んでいく。	1	30	1		○		○							○
26	○			保育内容指導 法 言葉	経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことを目指す。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。	1	30	1		○		○							○
27	○			保育内容指導 法 表現	本授業では、生活の中にあるものから感じたことを表現することと美しさを感じる経験を通して、表現活動の楽しさを知ると共に感性と表現力を養う。また、乳幼児期の発達、環境などの学びから、子どもの表現を支えるための保育者としての役割を理解する。	1	30	1		○		○							○
28	○			子どもの音楽 表現	保育現場で行われる様々な表現活動のうち、「音楽」に関連した活動を取り上げる。幼児期に豊かな感性や表現力、創造力を養うために、保育における音楽表現について考え、そして自らの表現力を高め、円滑な活動を運営できる実践力を学ぶ。	1	30	1		○		○							○
29	○			子どもの造形 表現	造形表現活動の基礎知識の習得を目的とし、具体的な造形教材・技法の活用法と留意点を学ぶことを通して、造形表現活動の楽しさを知り、保育者として幼児の表現を支えるために必要な「自身の感性を磨く」という日常の心構えを身につける。	1	30	1		○		○							○
30	○			子どもの身体 表現	子どもたちはからだをつかってあそぶこと・身体表現することが大好きです。保育の中で子どもたちの身体表現を引き出し、受け止めていくために必要な知識と技術を15回の授業の中で楽しく習得していきましょう。	2	30	1		○		○							○
31	○			保育方法・技 術演習Ⅰ	保育者が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法・技術」について、講義で明らかにするとともにディスカッション、グループ学習、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングにより、授業を協働で創りあげていく。	1	30	1		○		○							○
32	○			保育方法・技 術演習Ⅱ	保育者が備えるべき専門的力量の中核となる「教育の方法・技術」について、講義で明らかにするとともにディスカッション、グループ学習、プレゼンテーション等アクティブ・ラーニングにより、授業を協働で創りあげていく。	1	30	1		○		○							○
33	○			乳児保育Ⅰ	主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループ討議・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく。	1	30	2		○		○							○
34	○			乳児保育Ⅱ	主に教科書に沿って授業を進めるが、必要に応じてグループ討議・ワークシートの活用・事例を交えて学びを広げる。演習では、保育現場を想定し、人形等を使いながら実際の手順を学んでいく。	2	30	1		○		○							○
35	○			子どもの健康 と安全	テキストとデモンストレーションで基本的な理論と技術を学んだ後、実際の場面を想定し人形や物品を用いて練習する。子どもが健康・安全に行動できるように保育者は具体的にどのように支援すべきかをグループワークで考え、まとめ、発表する。	1	30	1		○		○							○
36	○			特別支援保育 Ⅰ	現場で必要とされる障害知識ならびに保育・指導技術を中心に、授業の到達目標に照合しながら、実際の事例などを取り入れながらすすめていく。	2	30	1		○		○							○



50	○		保育・教職実践演習	保育者として求められる「乳幼児・児童の理解」「保育の実践力」を学ぶことを目的とする。講義のほか保育実践や事例研究を通して保育の専門性を高め、実践力を養う。	2	60	2		○		○										
51	○		園芸 I	園内植物などの生長を観察し、栽培法を身に付け、園芸に関する基礎的な知識を実習中心に学びます。収穫物は調理実習や作品作りなどに利用します。天候により、ビデオなどを利用するなど、順序・内容を変更することがあります。講義は随時実習と組み合わせながら行います。季節により、春と秋の内容が変わります。	2	30	1		○		○										
52	○		保育・教育相談の基礎と方法	相談の意義と理論を理解し、方法と展開を学ぶ。相談を進める際に必要な基礎的な知識を学び応用と実践に繋げる。組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、現代的課題を含めた教育相談について理解を深める。	2	30	1		○		○										
53	○		キリスト教保育	キリスト教保育とは何かを学びキリスト教保育の理念や目的、内容を理解する。キリスト教保育で大切にされている行事を知り、具体的な保育の指導について学ぶ。乳幼児を取り巻く家庭や社会の現状を踏まえ、キリスト教保育の使命を学ぶ。	2	30	2	○			○										
54	○		教育社会学	社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的な知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。	2	30	2	○			○										
55	○		保育総合教養	保育に関する社会的、専門的な学びを深めるため、外部講師による話を聞いたり、施設の見学、体験をしたりする。礼拝や各行事におけるクラスでの活動に主体的に参加する。就職指導はゼミ制度とし、少人数で行う。	1 ・ 2	60	2		○		○										
56	○		教育実習	幼稚園教諭二種免許状取得のために幼稚園及び幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園にて観察、参加実習を行う。幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の職務について体験を通して学ぶ。	1 ・ 2	##	4			○		○	○								○
57	○		教育実習演習 (事前事後指導)	幼稚園教諭の役割を理解し、目的意識をもちながらどのような視点や心構えが必要かを学ぶ。教育実習 I に向けて書類・日誌の書き方を学ぶ。指導計画案・保育技術の理論と実際を体験学習する。	1 ・ 2	30	1		○		○										
合計					57科目				単位時間(89単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
89単位2, 250時間を修了した者		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。